

### アイユーゴー通信第 38 号 (追加号)

#### 日越ジョイント・セミナー 2024 (学生バージョン)

お世話になります。本会の活動にご理解とご協力に心より感謝いたします。

アイユーゴー通信第 38 号は日越合同セミナー改め日越ジョイント・セミナーの特集号です。それは 2 部に分かかれ、本号に、参加した各務理事が書いた「ジョイント・セミナーの意義と課題」を、追加号に、写真と学生が書いた感想文を載せました。

なお、このたび、海外の仲間たちとのセミナーということから、「合同セミナー」ではなく「ジョイント・セミナー」という方がしっくりする、との意見があり、今後は、合同セミナーをジョイント・セミナーと改称することにしました。

アイユーゴーは 8 月 16 日から 21 日(早朝帰国)の日程でベトナムのダラット市で日・越ジョイント・セミナーを行いました、ダラット大学の教員のヒエン女史 (Hien) が中心に準備し、調整してくれました。日本からは近大生 3 名と本会の理事である各務、そして新田が参加しました。

各務は、2022 年の日タイ、2023 年の日越、に続き 3 年連続の参加となりました。3 回の経験から思うところがあったのでしょうか。彼は、本号に、セミナーの意義や課題、

また今回の旅程、さらに、ダラット大学等での活動に関して、まとめてくれました。

日本から参加した 3 名の学生は、私が非常勤で受け持つ講座を受講している、あるいはすでに単位を取得した学生であります。私は、梅雨が明けるところになるときまって、受講する学生たちに夏の長期の休暇を利用して、様々な NGO のホームページを見て関心のある海外での活動に参加してみるように勧めています。日本の空気は読めと言われることもありますが、海外の空気はただ吸うだけでいい経験になります。今年は、ベトナムに行きたいと求めてきた学生が 3 名現れました。

ここでは、参加した学生の感想文とセミナー前後の様子を写真を通してみていただきます。

写真と言えば、よく目にするのは、観光地の特定の場所での(記念)写真が多くみられます。海外にせよ国内にせよ旅行中に撮った写真は、ほぼ決まって旅行雑誌などに見られる景色の中での写真が多い。ある人は、そのような写真の撮り方を、他の人が先に撮った世界の中で、自分も同じ場所にいましたということ「演じている」かのようだ、と、表現していました。(新田幸夫)

### 旅 程

### 学生の感想文

#### 8 月 16 日

日本を 10:30 に出国。ホーチミン、タンソンニャット空港に 14:05 に到着。時差は 2 時間。この日はホテルで 1 泊。



#### 8 月 17 日

Tan Van commune の人民委員会であいさつ。ミニ図書館を訪ね、村人から歓待を受けた。



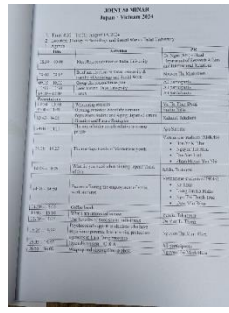
#### 海外セミナーでの経験

近畿大学生物理工学部 2 年  
高橋 優介

今回、私は特定非営利活動法人アイユーゴーが行っている NGO 支援活動の一つであるベトナムでのセミナーに参加させてもらった。ベトナムに到着して、まず感じたことは生活の水準の高さである。日本と変わらず、車がないと生活できないほど街が大きく発展しており、教科書で習った様な途上国としての姿とはかけ離れていた。また、スマートフォンなどのインフラも整備されており、日本と変わらない便利な生活ができたと思う。一方で、教会などの西洋の建物が混在している街並みは教科書で習ったベトナムという国の背景として理解できた。

ラムハーでは、NGO 支援活動の現場を直接見る事ができた。山間部の村に作られたミニ図書館は建設最中だったが、そこに携わる人々はミニ図書館を通じて教育の場の提供を図ろうとしており、その目的のために金銭的な支援を必要としていた。実際に現場を見て思ったことは、村の方々の意識の高さである。自分たちにとって何が必要であり、どのようなことに支援をうける必要があるのかを村全体が中心となって明確に示していた。正直、私は支援活動を全て NGO 団体が中心となって行い、何を行うのか決めていると思ってい

セミナーの前夜、ホテルの一室で各務先生によるプレゼンのレクチャー



セミナー案内の目次

8 月 18 日



ダラット大学の学生とキャンパス巡り



ダラット大学社会福祉学部セミナー室で



た。そのため、非常に驚いた。

ダラット大学内で行われたセミナーでは、ダラット大学の教授、学生の方との交流があった。ダラット大学の学生は、自分たちが生きる将来のことや現代の社会の課題などを日本と比較しておりとても分かりやすかった。

今回のセミナーを通して感じたことは、多くの人々が国際社会の中で必要な知識や技術を身につけ、課題を解決しようと試行錯誤していたことである。今回出会えた方々は、誰もが人のために行動し、自分にできることを実践していた。それは、自分が今の立場で何をすることができるのかを考えるための非常に貴重な機会になった。



プレゼンの前に、Hien 先生と高橋君

プレゼンのテーマ:What I am interested in now

### 驚きばかりのベトナム研修

近畿大学生物理工学部 1 年  
柴田 彩

私は今回初めて海外に行った。ベトナムを飛行機から見た時から日本との違いに驚いてばかりだった。まず、フライト中に島国で山が多い日本と違い、どこまでも平地が続いているベトナムに驚いた。また、ベトナムに入国した際、車、バイクの多さや日本の企業の車が多く使われていることにも驚いた。1 日目はこのように驚いでのばかりの 1 日だった。

2 日目はダラットまで移動の 1 日だった。そこには私がイメージしていたベトナムの風景が広がっていた。一方でホーチミンのような都市部では開発が驚くほど進んでいることに気づいた。その道中でアイユーゴーの建設したミニ図書館の見学を行った。またそこで地域の役所の方々からご飯をごちそうになった。

3 日目はダラット大学に行き、セミナーを行った。セミナーの前にダラット大学の学生たちと一緒に学校を見学した。ここで初めて 1 対 1 でダラット大学の学生と英語で会話をした。正直なところ、単語を頑張って聞き取りながら、こう言っているのかなと推測しながらの会話で、難しかったが、この経験は非常に貴重な経験で、海外の大学について知ることができてとても楽しかった。私と話した学生は将来フランスで勉強して、新しいことを学び、新しいことに挑戦したいと言っていた。その後、セミナーを行い、私もプレゼンテーションを行った。し



かし、このセミナーで驚いたことがあった。それはセミナー中にコーヒープレイクがあったことである。コーヒープレイクは参加者が自由にコーヒーやお菓子を楽しんでいた。



日本では、セミナーや会議があれば休憩なし行われることが多いが、コーヒープレイクがあることで緊張がほぐれ、参加者同士の仲が深まり、より良い雰囲気の中でセミナーを行えるのではないかと感じた。この制度は、日本の堅苦しい会議やセミナーにも取り入れた方が良いのではないかと感じた。

4日目はホーチミンまで移動した。その道中、SOS village に立ち寄った。親のいない子供が生活しているが、国際的な団体などからの支援額は年々減少しており、この村では受け入れる子供の人数を減らさざるを得ない状況にあると言っていた。また、子供たちのお母さんの役割をしている方がいて、実際に暮らしている家を見学させてもらった。本当の家族のようでとても驚いたが、ベトナムでは発展するだけでなく、親のいない子供の支援も必要であると感じた。

5日目はホーチミンの観光を行った。統一会堂、ベトナム戦争証跡博物館、サイゴン大教会などを巡り、ベトナムについてさまざまな話を聞いた。私はベトナム戦争という出来事があったという事実しか知らなかったが、アメリカ軍の統一会堂での早期の無条件降伏によってホーチミンが戦場にならなかったことなど、ベトナムの歴史について学ぶことが出来た。このような話を聞いて、ベトナム戦争についてもっと学んでみたいと感じた。私は初めての海外がベトナムでよかったと思っている。なぜならベトナムの人たちはみな優しく、フレンドリーで賑やかだからである。また、発展途上国というイメージが払拭され、とても活気のある国というイメージが変わったことも理由の 1 つである。

プレゼンのテーマ: The role of older people relative to young people

8月19日朝食、SOS村 8月20日観光



## 「好奇心は猫をも殺す」

近畿大学生物理工学部3年

堤一華

今回のセミナーで、私は「好奇心は猫をも殺す」ということわざの意味を痛感しました。

新田先生、各務さん、高橋さん、柴田さん、私の5名で6日間ベトナムに滞在し、アイユーゴーの活動の一端を見学させてもらいました。一日目はタンソンニャット空港に到着しホーチミン市の散策、二日目はラムハーに行き、アイユーゴーが支援している村に訪問させてもらい、建設予定のミニ図書館の見学と役員の方々と一緒にコミュニティハウスで夕食を食べました。三日目はダラット大学で学生さんや先生方との交流を行い、夕食も一緒にさせていただきました。四日目は SOS village やゴムの木を見学し、ホーチミン市内に移動しました。五日目はホーチミン市内を見学し、六日目に帰国しました。

今回のベトナムでの滞在で学んだ事や感じたことはとても多いです。しかし、学びが一番多かったのは三日目のダラット大学の学生や先生方との交流です。大学内を散策することも学生同士の交流やセミナーもどれもが目新しく、興味深いものばかりでした。近畿大学と似ているところ、違うところ、日本とベトナムの文化の違いを一番顕著に感じました。ダラット市内を散歩するだけでもその町の人々の文化や生活の一端を知ることができてとても興味深いです。ダラット大学の学生さんがしてくれた発表テーマが「結婚」と「仕事に必要なスキル」で資料の内容が日本で見聞きしたことのあるようなものが多かったので日本とベトナムの抱えている問題の方向性は似ているんだと驚きました。交流していくうちに話し方やその内容からダラット大学の学生さんやタン君は学びに対する意欲が自分より強いんだろうと漠然と感じました。自分が将来どうしていきたいか、どんな風に学びたいかという理想があるのだろうかと感じ、日本でダラダラと大学で過ごしていた自分が少し恥ずかしく、反省しました。

ベトナム滞在中は大人数でご飯を囲むことが多かったため、一人での飲食や普段の食事などを知ることはできませんが、飲食店のメニューや作っていただいた料理は大皿が多く、皆でシェアして食べるものばかりだったので、ベトナムの方々の明るさやフレンドリーさは、大皿を囲んで皆で同じものを食べる所から来ているのかなと感じました。

食べ物はどれも美味しく、安心して食事をすることが出来ましたが、唯一私が安心することができないものがありました。それは、調味料です。フルーツとセットでついてきた調味料を好奇心で試して、口内が途轍もなく痛くなった時の衝撃は一生忘れないと思います。ベトナムの調味料は基本的に食べ物を更に辛くするためのものなんだと痛感しました。食べる直前で「もっとフルーツにつける調味料を少なくしたほうがいい」と指摘してくださったコイさんには感謝してもきれません。ベトナムでの六日間で学んだことはとても多いですが私の中での一番の学びは「調味料は慎重に試すこと」でした。

プレゼンテーマ: What do you need when visiting Japan?

Think of five.